

## 理想とする未来、現実の現在

平賀 一枝

十年後の未来。ふとした時に未来を描いては、現実を受けとめる事に精いっぱいになって想像した未来を閉じてきました。高等学校の制服に腕を通す毎日が、少しずつ確実に無くなっていく事を、身をもって感じているからです。

冬になって、雪が降り始めました。もうすぐ卒業なのだなと感じさせます。私は岩手県が大好きです。とくに自分の住む花巻市が。長閑な景色に変わりゆく季節。それらがとても好きだったために就職を岩手県内に決めたほどです。そして時々考えるのです。岩手県が、花巻市が変わっていかないようにと。未来でも、十年の時が流れていっても、この美しい景色が生き続けることを。そうすることで二十七歳になった自分が未来へと歩いていく生活の中で忘れていた安らぎを思い出すことができると思うのです。「何も変わっていないよ」と、誰かに言われるのではなく、目の前に広がる美しい自然がいつまでも生き生きとしている姿を見ただけで、「いつまでも変わらないものがあるよ」と、信じさせてくれるだろうから。

十年後の私は大人になっています。そして理想とするなら結婚もして子供も居ます。春になったら雪が解けて、桜がきれいだねと笑い合い、夏になったら花火大会と甲子園。蒸し暑い夜に花火を見ながら涼しみ、高校野球を観戦しながら母校が甲子園に行くことを願い一生懸命応援し、秋は紅葉。散歩しながら赤や黄色、オレンジなどの色に染まった木々をゆっくりと見回しながら、もうすぐ冬だねと微笑み、そして冬。呼吸をするたびに白い息が出て、かじかむ指先。日はどんどん短くなって、夜の空がすごく鮮やかに輝いていて「もう、冬なんだね」と、あっという間に流れていった一年を思い返すのです。そこにはいつも笑顔が絶えない我が子と、その小さな手を包む自分の手と夫の手。小さな事が幸せだと思えるように、幸せだと思える事が一番幸せなのだと思うような家族を未来では創っていたらいいなと思っています。

そして、未来の私のそばにはいつも岩手県のあたたかな安らぎのある居場所があるようにと願っています。宮沢賢治の創り上げてきた歴史と岩手山の美しさ。現在までに私が学んできた岩手県のすばらしさを、学校の先生や地域の方々に教えていただいたように、未来では私が子供たちに教える立場になりたいと思います。

今から十年後。二十七歳になった私と、十年時が流れた岩手県。高等学校の制服に腕を通す私は、もう居ません。現在の私と比べてどこが変わったのだろうか、どんな人と結婚したのだろうか、想像もできないしわからない。それは未来の岩手県だって同じです。この美しい風景が変わっていないかもしれないし、少なくなっているかもしれない。すべては現在の私たちがどのように歩いていくのかで未来が変わっていくのだと思います。願いが叶うのなら、いつまでも空が広く眺めていられますように、季節の移り変わりを感じていられますように、それらをずっと味わう私が笑顔で居ますように。踏み出す一歩が怖いけれど、ふとした時にまた未来を描いて歩いていきたいと思っています。